

たらばな



〒181-0013 三鷹市下連雀3-45-15 鳥田ビル3F
TEL 0422-72-0350 FAX 0422-72-0399
E-mail: staff@kunikou.jp
URL: http://www.kunikou.jp/
発行責任者: 同窓会幹事長 柴沼君晴

ダウン症児のママはシンガーソングライター MIMOの「ギフト」な日々

酒井(原) 美百樹さん 平成4年(1992年)卒



「生まれてくれてありがとう。選んでくれてありがとう」
心から溢れ出した気持ちを優しく歌い上げるMIMO(みも)こと酒井(原)美百樹(みゆき)さん。ダウン症の愛娘から毎日受け取る「ギフト」を、いまこそ、すべての人に届けたいと、全国でトーク&ライブを開催しています。障がいを持つ子の母として、シンガーソングライターとして活躍するMIMOさんの思いを語っていただきました。

●インターネットのブログ等で活動の様子を拝見しています。とても忙しいそうですね。出演依頼が殺到しているのではないかと想像しています。

フリーランスでの活動のため、曲のアレンジからインターネット上への掲載、CD販売、〈iTunes〉での配信、ライブのスケジュール調整まで、家や育児の合間に、すべて自分で行っています。

最近ではネットや口コミで、あらゆる方々からイベントのご依頼を頂いています。また障がい、育児、日々の出来事など、私のはっちゃけた「赤裸々なトーク」を期待されている方も多いです。歌も巻の子供向けの歌や、今流行している歌など、イベント参加者に合わせて選曲し、来ていただいた方も一緒に歌って踊って楽しんでもらえるような「参加型音楽交流イベント」を行っています。

●音楽活動を再開したきっかけは、2011年国連に3月21日の「世界ダウン症の日」の最初の公式キャンペーンソングとして、MIMOさんの曲「ギフト」が選ばれたこと?

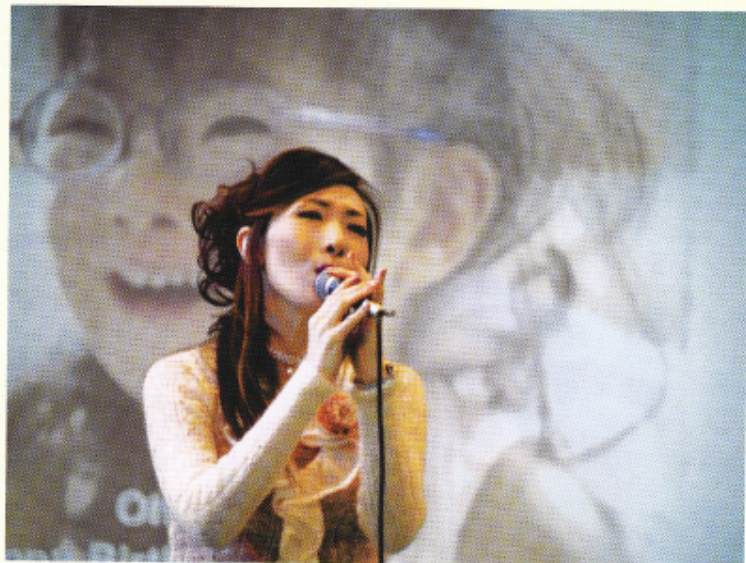
結婚したのを機に、それまで行っていた音楽活動をセーブしたのですが、娘の7歳の誕生日プレゼントとして作ったのが「ギフト」でした。コンピュー

ギターを使って作り上げて、こっそり家の中で楽しむだけで終わりのつもりだったのですが、ある日ヘルパーさんに聴いてもらったところ、「なんでこんな良い曲が、この家の中で埋もれているの！早く世に出しなさい！」と背中を押され、インターネットの動画サイト「YouTube」に掲載したところ、一年くらい経ってから、世界ダウン症の日のキャンペーンソングの採用依頼を頂きました。

●その後、同じ2012年には、世界的なチャリティイベント「パティウオーク」(日本では、NPO法人アクセブションズが主催)でも、初の公式テーマソングとして「ギフト」が選ばれて、翌年も「きみはきらきらダイヤモンド」が選ばれていますね。

人と人との繋がりが繋がりを呼んで、「パティウオーク」のテーマソングとして使っていただくことになりました。人の繋がりがって本当にすごい。インターネットが無かったら、こんなに私の可能性は広がらなかったと思います。目標さえあれば、どんどん自力で道を切り開いていける。本当に良い時代になりました。

●そんなMIMOさんのシンガーソングライターとしての人生は、国高時代がはじまりだとか。



「音楽で心のバリアフリーを」それが私のライフワークです

国高に入学してすぐ、立川市民会館(アミュータチカワ)で行われた新生歓迎会で「とんぼ」を披露していたギター部に魅せられて入部しました。「ギター部」なのになぜか私、歌しか唄ってなくて。私が2年生の新人歓迎会では「オリーブを聴きなごら」、3年生の時には「未来予想図II」を歌っ

ていました。そのときに客席から頂いた拍手の感動が忘れられなくて、歌手になりたいと思ったことが、20年以上経った今の自分に繋がっています。またMIMO(みも)という名前の由来も、実は国高時代の友人たちが私のことを「美百樹」が「みもじゅ」って読めるって。高校時代はずっと「みもじゅ」と呼ばれていました。

●「いま、とても幸せです」と笑顔のMIMOさんですが、「ギフト」の中に、出産後、医者から障がい告知されるシーンが歌われていますよね。「幸せ」と言えるようになるまでには、やはり多くの苦悩や葛藤があったのではありませんか？

娘が生まれて3週間後にダウン症と告知されてから「ギフト」を発表するまでの7年間、「うちの娘、ダウン症なんだ」の、

そのひと言が友だちにさえ言えなかった。「泣いて泣いてごめんね。元気に産んであげられなかった」という歌詞そのものです。でもいろんな人に支えられて生きていくうちに、大切な人たちに感謝する気持ちが芽生え、「私の人生は幸せだなあ」と心から思えるようになりました。だから曲自体は3日で書き上げたけど、実は7年分の心境の変化と、今辿りついた幸せな想いが「ギフト」にはぎゅっしりと込められているんです。「ギフト」を発表してからは、友達にも「この曲聴いてみて」と言っていて、娘がダウン症であることをポジティブに伝えられている。「ギフト」は今では私の名刺代わり、お守り代わりにもなっていますね。

●いつだって、パパやママが幸せな気持ちで、笑顔でいることは大切ですよ。本来、一番、大変なのは障がいや病気を患った子供はすなのにな、パパやママが落ち込んでいたら、本人が、気を遣って泣けなくなってしまう。

おっしゃるとおりですよ。だから今の私にはもう、涙も迷いもないです。ただただ我が子が愛しい、それだけです。最近、新型出生前診断が話題になっていますよね。私には検査の是非は問えないです。お一人お一人の人生だし判断です。でも検査で分かるのは染色体の数まで。その家族の10年後の笑顔



同窓会事務局にて

や幸せは分からない。子供の未来の可能性までは分からないです。私が出産後に悩むことになった理由の一つは、ダウン症に対する情報が、まだまだ少なかつたことでした。あるのはネガティブな医学情報だけ。もっと生身のポジティブな情報があったら、余計な不安を抱くことは無かつたかも知れません。それならばいつそ自分が一つのモデルケースとして、私たち家族の場合を伝えていこうと思ったのが、今の活動を行うことになった動機です。少しでも生身の情報を提供して、悩んでいる人たちが助けたい。私がたくさんの方たちから受けた愛を、今度は私が次の世代にお返しする番だと思っています。

●障がい者や病氣の人に限らず、大切な人への「想い」について、私たちでは上手く言えないことを、MIMOさんが歌ってくれていますよね。
例えば私たちの世代だと、今、子育てと仕事の両立に、これでいいのだろうかと迷っている女性も多いのですが、MIMOさんの歌声が、何かを気づかせてくれる。それは、決して同情や励ましではなく、「それでいいよ。そのままでもいいよ」と認めてくれる。MIMOさんの歌は「励まし系」でも「癒し系」でもなく、いわば「許し系」。そこがMIMOさんの歌の魅力かと。

障がいや病氣、家族、仕事、辛く苦しいこと、人それぞれいろいろあるけど頑張っているすよね。もう十分頑張っている。それなのに、もっと頑張れ！と歌われても、そんな人たちは、「これ以上どう頑張ればいいのかよ？」と、苦しくなってしまう。私は追い詰めたくないんです。あなたが生きている、それだけで幸せな人がいることを、決して忘れないでいてほしい、そのことを伝えたいんです。
今、私は、いろんな「痛み」に向き合える機会がある。言いたいこと、伝えた

い思いが毎日溢れて止まらない。これからは私にしか見えない世界を、私にしか表現できない言葉で、でも皆の心には優しく刺さり何かを気付かせるような、そんな歌を残していきたい。不器用でカッコ悪くたっていい。ありのままの自分の生き様をさらすことで、誰かに何かを伝えられるのなら幸せです。

取材・文

こんなフテブテシクも強い私に変えてくれた我が娘は、やっぱり天から私への最大の「ギフト」。
彼女に心から感謝の日々です。

鬼塚(三上)恭子(平成4年卒・同級生)
藤井勝巳(平成3年卒・ギター部先輩)

■MIMO オフィシャルサイト <http://musicgift.info/>
MIMOさんへの出演依頼、CDの購入など、こちらのサイトから可能です。

■ダウン症とは
正式名称はダウン症候群で、イギリスの眼科医・ダウン博士の名前に因んでいます。どの国にも800人~1000人に1人の割合で発症することが分かっています。

■プロフィール
酒井(原) 美百樹 (さかい みゆき)

1992年：国立高校卒業
1996年：大学卒業後、大手事務所にスカウトされたものの、能力の限界を感じメジャーデビューを断念。その後、タレントのバックコーラスや都内ライブハウスなどでシンガーとして活動をする。
2002年：結婚と同時に音楽活動をセーブ
2004年：出産した娘がダウン症であったことをきっかけに、DAW(コンピューターミュージック)を習得して活動を開始。
現在：イベントやインターネット(SNS)などで「障がいがあっても幸せ」というポジティブキャンペーン「ギフトプロジェクト」を展開中。音楽でやさしさが広がるような音楽活動を行なっている。

■主な作品
2011年「ギフト」
「2012年世界ダウン症の日」キャンペーンソング
「第1回パティウォーク」テーマソング
2013年「楽しくくれ」「きみはきらきらダイヤモンド」
「第2回パティウォーク」テーマソング
2014年「愛してく」